

還る家とともに

かえるいえ

生と老いと病と死と、
喜びも悲しみも、ともに歩みたい……
誰もがいつでも
心の深呼吸ができる場所

〒244-0002 横浜市戸塚区矢部町125

電話 045-881-0348 FAX 045-881-0379

E-mail: mail@zenryouji.jp http://www.zenryouji.jp

発行責任 善了寺 還る家とともに



アート才能・花開く♪



毎日やってます!

日々の自由な時間のなかでは、アートの才能もきらりと輝いています。左の作品たちはニッコリ笑顔の小糸さんが生み出したもの。色鉛筆やペンだけでなく、包装紙だって新聞紙だって、小糸さんの手にかかればたちまちアートに変身します。何年も作り続けた作品を展示して、「小糸展」をひらこうか!という案もあるほどです…♪



やったことないけど…



目エ閉じててもできるわよ



墨絵はいいね~

編み物や墨絵や書道は、昔取った杵柄…!?さすがに長年の積み重ねは違いますね~と感心する一方、初挑戦ながら熱心に取り組まれる方もいらっしやいます。「やってみよう」というそのチャレンジ精神に、脱帽です!!



納得いかない!と書き直し、2枚目でこの出来栄え!!



★スタッフのつぶやき★

マレーシアのサラワクの熱帯材が日本のベニヤ板として
コンクリート枠に使われ、1カ月とかからずに使って捨てられる事を知った数日後、坊守からタスマニアの原生林が日本のティッシュとして使い捨てられている話を聞き耳を疑った。外国の数百年かかって育った尊い大木を日本で惜しげもなく使い捨てていたとは…。申し訳ない気持ちとその背景に1ミリの想いも巡らせたことがない自分が恥ずかしい。

日本の国土の3分の2は森林で木材を自給自足できる程あるというのに今は自給率2割で世界第2位の木材輸入国というのはおかしな話だ。

戦後の拡大造林で針葉樹がたくさん植えられ森林の4本に1本は杉らしい。人が森に入り手塩にかけて人工林を管理すれば豊かな自然環境と資源を産みだすが、多くの人工林は放置され土砂災害の引き金となっている。一度崩れた所は数十年数百年と元に戻らないというから恐ろしい。難題山積みの人工林だが、それでもなんとか森を守ろうと努めている人々がいる。乾燥が難しい杉の活用に力を入れている人たち、伐採した木を薪、チップ、ペレットにしてエネルギー利用し里山を育てている地域もある。花粉症で疎まれている杉を名乗る私は、いつの日かこれから何百年ともつ杉の木をふんだんに使った家に住めたらなと夢見ている。杉に日の目を！！

杉本信子



編集後記

先日 わがデイサービスが目指している「新しい介護」の三好春樹さんの講演に行ってきました。そこで、三好さんが、良い施設の見分け方として、『①いろいろな高さのイスとテーブルがあるか？②見学はいつでもオッケーか？』これだけでも目安になると言われました。①は小さいおばあさんと大きいおじいさんとは、当然、座高も足の長さも違うので、足が床に着いて座るために、また食事がのどに詰まらない為に、前かがみで食事をするためにという理由です「生活訓練に勝る訓練なし」②について、いつどんな場面でも他人様に見られても「問題」ないですという証だ、と講演されました。私は「えっ①も②も、うちではすでにやっていることよ！ヤッター!!早速、スタッフに伝えてあげよう」とうれしく思いました。長い年月、大変なご苦勞を乗り越えられて年を重ねて生きてこられた方たちに、どうか心地よく過ごしていただきたい。お風呂で泡だらけになったり、トイレで糞まみれになったり、口喧嘩したり、歌を歌ったり、振り回される事もあります。でもでも、いっぱい泣いて、いっぱい笑ってふれあいを大切に。ゆつたりと…

坊

※今年は、新しい介護を提唱している三好春樹氏による「生活リハビリ講座(年5回)」を、3名の職員が受講しています。それぞれの研修報告の全文は、還る家のホームページにアップしていきます。是非ご覧ください♥



ボランティアさん

ありがとう♥

中嶋 芳江	秦野かねよ	安藤 信子	竹中 秀子
西岡美都里	寺島 美代	渡井 敏子	朝倉好子
別府与志子	濱崎 芳子	市野和歌子	弓削 福子
矢口 和子	秦野 雅子	飯島 慶子	美濃口静子
米村 正男	小寺 久枝	江田 峯子	中島 雄子
長井万佐江	村井ヒテ子	江尻 伸子	鳥巢スエ子
牛島 寛子	橋本 淑子	長澤チヨ子	福寿貴美恵
犬塚 照夫	松村 節子	秦野 宣子	山本 保基
大金スエ子	松田 良子	梅本 忠男	小林 ミエ
大森英理亜	大塚 節子	近藤 紀子	
林 ヨシ子	山下トキエ	関川美壽子	

敬称略

生活リハビリ講座①

認知症老人のケア I を受けて(一部抜粋)

2011.5.12

認知症への見方や関わり方は、本当に奥が深く(おひとり、おひとりへの対応なのだから当たり前なだけで)私自身、常に学んでいかなければ…と感じました。

また他施設のスタッフの方とお話することも大切だし、小規模デイならではの良い部分と、陥りやすい部分など、考えるきっかけになりました。

以前読んだ下村恵美子さんの本の中に「私たちの付き合い方や心ない一言でお年寄りを死に追いやることもできるし、笑顔を取り出すこともできる…」という言葉がありました。日々大切に、心してじいちゃん、ばあちゃんと楽しく過ごせたら、うれしいなあと改めて感じました。

若林 明子